
神様を食べるお仕事の小説

ぼたん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様を食べるお仕事の小説

【Nコード】

N6504N

【作者名】

ぼたん

【あらすじ】

god eaterとして歩み始めます

とてつもなく痛い面接（前書き）

※これはg o d e a t e rを元にしております ネタばれの可能性
あり

神様を食べるお仕事だよ

とてつもなく痛い面接

やれやれ……

金がないからって変な企業に入ってこんな目にあうとはな……

フェンリル極東支部か

あやしいブラック企業だろコレ

まあこのご時世クリーンな方が珍しいわ

アラガミ、ねえ……

荒神……

異形の怪物

オラクル細胞の塊

全てを捕食する人類の敵

……か

それに対抗する武器

神機でそいつらを殺すのが……

お仕事ってか

相手さんは仮にも神様だ

天罰ですぐ死んじまうんだろうなあオイ

まあ悩んでもしょうがねえか

わーお

いきなりホールみたいなところに出たけどいいのか？

「君が新型候補か」

「リラックスしたまえその方がいい結果が出る」

あらココ面接とかないのか？

まあいいけどさ

「そのケースの前に立ちたまえ」

ケースじゃないものが前に置いてあるがこれがケースだろう

何か赤くて

上に蓋っぼいがある

落ちてくるだろコレ

剣？ いやこれが神機かな？

持てばいいの？

怖いけど仕事手に入るなら良いぜ

スッ

上の奴が降りて来るんだろうなー

バアアン

ギアアアアアアアアア

痛い痛い

腕が：

なんか入ってきてないか？これ

ぐちゃぐちゃ言ってる

喰われる

はっコレアラガミじゃないのか？

騙されたあああ

人体実験じゃねえかコレエ！！

これアラガミだあああ！！

喰われる喰われる!!!

プシュー

あれ俺生きてる？

「おめでとうこれで君は今日から」

「ゴッドイーターだ」

やれやれ…

右手が死ぬほど痛くして

ゴッドイーターだとか言われても
痛くて死にそうですー

「気分が悪いなどの症状がでたあすぐに言ってくれ」

やれやれ…

すでに死にそうだ

こうして俺の、霧島牡丹のゴッドイーターとしての
人生がスタートした

とてつもなく痛い面接（後書き）

読んでいただいておりますがとうございました
そして間違えて短編にしてしまいました申し訳ありません

3週目プレイは面倒だぜえ……

仕事はまだかいな？

はぁやれやれ…

なんだありや腕がすごく痛いぞ
ソファーがある休もう手が痛い

「ねえガム食べる？」

くれ

どうにかして気を紛らわしたいんだよ

「あれ？ 今食べてるのが最後だったみたい。ごめんごめん」

（いやがらせかこの野郎……）

「ねえあんたも新しく来たの？」

ああなんとなく来たら受かってしまったんだよ

「俺と同じか少し年上か」

「まあ俺の方がすこし先輩ってことでよろしく！」
数分で先輩か。シビアな世界だな

カツカツカツ

ん？ 白スーツお姉さん来た

「立て」

「へ？」

「立てと言っている！ 立たんか！」

Sっぽいお姉さんだなぁオイ

「お前らの教官を務める雨宮ツバキだ」

「死にたくなければ私の命令にはYESで答えろ」

「いいな？」

「……」

……

いやいやいや何処の鬼軍曹だっの

「返事は？」

「ハイッ」

はいはい

「メディカルチェックを行ってもらおう」

「まずはお前からだ」

「一五〇〇までに」

「榊博士のラボに行ってくれ」

了解しました教官殿

そのまえに新人として

エントランスにいる方々にご挨拶を

百田ゲンさんや

楠リツカちゃんが色々教えてくれた

エレベーターに向かい上へ移動

女性隊員が一名いる

話しかけてみた

「あ、新しく来た新型の人ですね」

「私、台場カノンって言います」

「メディカルチェックですよね？」

「榊博士へんな人ですけど」

「変な事はされなと思います……たぶん」

変人にチェックされるのか…

やれやれだ……

失礼します

「おや予想より早いねえ」

天パメガネのおっさんがなんかいじってる

「ヨハン先に君の用事を済ましたらどうだい？」

「そうかペイラーでは先に済まさせてもらおう」

「ではまずは一言おめでとう」

このやろうホールの声の奴か

「私は、ここフェンリル極東支部支部長」オオ！

「ヨハネス・フォン・シツクザール」スゴイ！！

「君の仕事はアラガミの撃破、アラガミの捕食、コアの回収をしてもらう」

「我々の目的は旧日本海地域に」コレガシンガタカ！！

「完全にアラガミから守られた」

「楽園をつくることだ」

「君には期待している」

なんだこの髪型

前髪ワカメみてえ

話が長いってんだよこのワカメ

つまり斬って喰って拾ってくればいいんだろ

「この計画が完遂されれば」

「我々は当面アラガミから守られるのだ」

「ではペイラー後でデータを送ってくれ」

「彼も元技術屋でね」

「君のデータに興味深々なんだ」

なんだこのブラックな職場

「じゃあそのベットに横になって」

ベット？ 何処にそんなものが？

オイあの汚い箱のようなものじゃないだろうな

「少し眠くなるだろうけど」

「次起きた時は自分の部屋だ」

「ゆっくりお休み」

.....

ガバッ

どうやらここが俺の部屋らしい

メデイカルチェックってなんだったんだ？

まだ仕事してないよな俺

仕事はまだかいな？（後書き）

読んでいただいておりますありがとうございます

榊と支部長の台詞抜けてますがご了承ください

クロツガつええ

これも仕事なのか？

とりあえず部屋から出よう……

ん？ なにこの物体……？

エントランスにもあったから後で聞けばいいか……
やれやれ……

ん？

先輩である男性が話しかけてきた

「お前が例の新型か」

その通りですよ

「下でツバキさんが呼んでるぜ」

「さっさと行った方が良いぜ」

遅刻するとお仕置きされるのか？

目隠しされて動けない状態にされ

耳元でなんか言われたり

鞭とかでしばかれるのだろう……きっと

そんなのは嫌だ

私はむしろしばきたい方だ

怖いからさっさと向かう

「基本的戦術、体力UP、筋力UPを覚えてもらう」

「ミッションについては」

「そのカウンターにいる」

「ヒバリに話を聞くと良い」

赤髪蒼眼の女性がいる…

名前は日本人っぽいが

完全に違ふとこの血が入っている

「チュートリアルをやるかそのままやるかどうしますか？」

メタ発言するな

みなさんこれはウソですよー

まあ体動かすのから

チュートリアルで

最初のホールで体動かしたり

模擬戦をしたが

ずいぶんといい動きをするらしい……

俺がそんないい結果を出せるのか

「さあ基礎は終わったぞ」

「さっさと実践へ行け」

やれやれ……

まあ練習ってか基礎みたいな

実戦をするそうなのでまあいいか……

奥のソファーに座って待つ……

お、上官らしき人物がやってきた

「あ、リンドウさん」

「支部長が見かけたら顔を出せて言っておけと…」

ヒバリさんそういう仕事もするのか

「OK見かけなかったことにしてくれ」

仕事しろよ……

「あーお前が例の新型か……」

「俺は雨宮リンドウ」

はじめまして

「形式上お前の上官に当たるが…」

「まあ細かい話しはどうでもいい」

「とっとと背中を預けられるくらいに成長してくれ」

テキトーだなこの人……

まあ堅苦しいのよかしいけどよ

あと最後にいい感じのこと言っでごまかすな

カツカツカツ

なんかヒラヒラした人きた

「あ、もしかして新しい人？」

「あゝ今新人に厳しい規律をたたきこんでいたところだ」

「あっちへ行ってなさいサクヤ君」

どの口が言うか

嘘もほどほどにした方がよいぞ

てか

なんつー格好してんだこの人…

ヒラッヒラしてるんだけど

何これ何これ

くわしい事は画像検索しとゲフンゲフン
何でも無いぞ

「おい新型行くぞ」

やっと仕事かよ……

そして俺の名前全無視かよ

（霧島牡丹な）

これも仕事なのか？（後書き）

あゝ台詞とか覚えてねえええええええ

何のための3週目だよおオオオオオオオオオ

馬鹿なの？俺

ああ主人公空気なのに

わざわざ名前つけてどうすんだよ

まあこっちのが楽だが

やっと仕事だよ。新人がいきなり現場ですか？（前書き）

あー読んでくれる人居ねええ

やっぱりクリア後ストーリーの方が良かったのか？

まあストーリーの「奇跡」？まで書くぞ私は

やっと仕事だよ。新人がいきなり現場ですか？

あー

記念すべき一回目の仕事は

俺の所属する部隊の隊長さんが一緒に来てくれるらしい
だが隊長さんはやる気があるようには見えんのだが……

まあそりゃそうだろう……

新人の仕事一緒に行ってやれ

なんて言われたようなもんだ……

「さあ実地演習だ」

「さて新型命令は三つだ」

少ないのか多いのか分からないんだが……

まあ無視したり聞いてなかったり

命令違反したら減給とかになりそうだから聞いておこう

「死ぬな」

「死にそうになったら逃げろ」

「そんで隠れろ」

「運が良かったら不意を突いてぶっ殺せ」

「あ、これじゃ4つか？」

4つだよ

まあ良い命令ですね

ですが命令を一つにして

『誰も死ぬな』

とかにしましょう

「ま、とにかく生きのびろ」

「それさえ守れば」

「後は万事どうにでもなる」

生きてりゃどうにでもなるのか？

両手両足骨折して義母が訪ねてきたりするんですか？

そんなことはさておき

死ななければいいんですね……

了解しました隊長殿

「さくで、おっ始めるか」

なんか高台から降りて

右の方へ行くと

白っぽいアラガミ

『オウガテイル』発見したよ

アレを倒せばいいんですね？

私はさっさと帰りたいんだ

こんな良く分からない生物にかまってられるか

おらおらおらおら

ブレードの錆にしてやるよ

！！

オウガテイルがしっぽ振りかぶってる

ドガァ！！

わき腹に尾が直撃する

「大丈夫か？」

いってええ

挟れた感覚だよ

だが死ぬほどでh

注射的な回復剤を打って

無理矢理戦ってやんよ

てめえこの青白い阿呆がああああああああ

一心不乱に切ってたら

動かなくなりました

これを食べて終了ですね

え？ 私がこんな物食べる訳無いでしょう

神機が食べてくれます

まあ説明はおいおいやって行きます

やっとな仕事だよ。新人がいきなり現場ですか？（後書き）

は
は
は
は
は
は

やっと戦闘シーンだよ

戦闘シーンつまらねえええええええええええ

自分の文才の無さを笑うよ

H
A
H
A
H
A
H
A
H
A

大型ならまだ書けなくもないが

オウガテイル何ぞたいしたことにもならんだろう

文章になるわけがなかろうて

てか読んでくれる人居無さ過ぎだろう

平和のいいんだよな…いやでも…いや平和でいいや

ふう

オウガテイルを捕食し

アナグラへと戻る

今日はもうさっさと寝たい……

トゲトゲした尾が腹をこう

ゴリツッと挟られるような削られるような

いやーなスタートでしたホント

自室は……

新人区間の一番奥らしい

もう寝ようすぐ寝ようさっさと寝よう

あと起きたら平和になっててくれ

起きたら飯を食って

学校？に行き普通に暮らしたい……

ぜーんぶ無かった事になって

普通に平和で平凡にならないだろうか……

なーんて考えながらベットで横になる

初日にこんなことするべきではないんだろうな

まあこういうのは一回目が肝心だと思う

そんな事を考えていると睡魔が襲ってくる

アラガミには襲いかかれてもどうにかできるが

睡魔からは、逃げられないってか？

ん……

あー朝か……

んー頭がぼーっとしているような気がする

あれでもこれぼーっとして無いんじゃないか？

えーでも……えー？

あれー？

なんて事を考えている内に

頭は普通に仕事を始め出した

あー思いだした思い出した

周りを見る……

平和で平凡な世界にはなっていないようだ

コンコン

ノックされた

はいはーい

あいてまーす

「よっ」

藤木コウタが

ドアを開けて挨拶してくる

おはようございます

何かご用で？

「榊博士のところに行つて」

「アラガミの事を教えてもらつて来いってさ」

そうか

いつてらっしやい

「言っとくけどお前も来るんだぞ」

「はやくしろよ」

やれやれ……

面倒なこった

平和な世界ならこれが

常にあるのだろう……

だとしたら……

………

いや平和になってしまえ

平和な方が良い

平和が良いよなうん……うん

さて…

榊博士の研究室の前にいる訳だが

コウタが、キヨロキヨロしている

入りたくないのか？

いいから入れ

お前が誘ってきたんだろうが

ペイラー・榊の楽しいアラガミ教室

はーじまーるよー

………

いやなんでもないぞ……

「さて！いきなりだけど」

「君達ってアラガミってどんな存在だと思う？」

「人類の敵」

「絶対の捕食者」

「世界を破壊するもの」

「まあこんな所かな」

「これらは認識として間違っていない」

「むしろ、目の前にある現象を」

「素直に捉えられている」

「と言えるだろうね」

「じゃあ何故どうやって」

「アラガミは発生したのか？」

「って考えた事あるかい？」

「君達も知っての通り」

「アラガミはある日突然現れて」

「爆発的に増殖した」

「まるで進化の過程をスッ飛ばしたようにね」

なるほど…わからねえ

まあ増えるのはあれだろ

気付いたら本が増えていた

みたいなものだろ

「ふあああああ」

コウタ欠伸するな

お前が来いと言ったのだろうか……

「なあなあこの講義なんか意味あんのかな？」

「アラガミの存在意義なんてどうでもよくね？」
誘っというてそれかよ

「そうかね？」

うおあああ

私に近寄るなあああああああああああ
怖いんだよ…

「アラガミには」

「脳が無い」

「心臓も脊髄すらもありはしない」

へーすごいいきものですねー

さすがかみさまだねー

こんな知識しってどうなるよ…

「私達人間は頭や胸を吹き飛ばせば死んじゃうけど」

「アラガミはそんなことは倒れない」

「アラガミは考え捕食を行う」

「一種の単細胞生物」

「『オラクル細胞』の集まりだ」

へー単細胞生物ねえ

多細胞どころじゃないと思うぞあれ…

「そうアラガミは群体であって」

「それ自体が数万、数十万の生物の集まりなのさ」
そう考えると気持ち悪すぎるだろ…

「その強固でしなやかな細胞結合は」

「既存の通常兵器では、まったく破壊できないんだ」
そりゃすごいっすねえ

「じゃあ君たちは」

「アラガミとどう戦えばいいんだろうね？」
いやそりゃ

最近貰った便利な武器さんで
サクサクつとねえ

「えーとそれは…」

「神機で斬ったり撃ったり…」
俺と同じような頭してるなコイツ
まあコイツの方が酷いかな

「そう結論からいえば」

「同じオラクル細胞が埋め込まれた
『生体武器』『神機』を使って」

あああれ生体武器なのか
なるほど……

だからあの気持ち悪いのが出てきたのね……

「アラガミのオラクル細胞結合を断ち切るしかない」
そりゃ面倒だ…

こうオラクル核ミサイルとか無いんですかねえ？

「だがそれによって霧散した細胞群も」
「やがては再集合してあらたな個体を形成するだろう」
あれ？それ無限ループじゃないんですか？

なにこの無駄な仕事
急にやる気失くしたぞ

「彼らの行動を司る司令細胞群…」
「『コア』を摘出するのが最善だけど」
なるほどそれをしたらいいんだな？
やる気出てきた

「これがなかなか困難な作業なんだ」
「神機をもってしても」
「我々には決定打が無い」
うわぁやる気失くした

「いつのまにか人々は」
「この絶対の存在を」
「ここ極東地域に伝わる八百万の神に喩えて」

「『アラガミ』と呼ぶようになったのさ」

「さて今日の講義はここまでにしよう」
やっと終わったよ
長いわすごく長いわ
もう仕事したくない今日は休みでいいよね？
ダメ？ハイハイ分かりましたよ

「アラガミについてはターミナルにある」
「ノルンのデータベースを参照にしておく事いいね？」
おわったよ

さぁ今日も楽しいお仕事だよ

でももう疲れたよ……

ああ

普通で平和で平凡な世界なんざいらねえ

普通で平和で平凡な講義の無い世界がいいわ

平和のいいんだよな…いやでも…いや平和でいいや（後書き）

読んでいただいてありがとうございます

はい講義長くてすみません

私もココは嫌でした

ムービー見直したり

台詞打ち込んだり

ムービー見たりで

疲れました

背中痛い

サクヤさん誤射しないでね(前書き)

ははは

前回長過ぎたよ

やってらんねえええええ

サクヤさん誤射しないでね

ふう……

榊のおっさんの講義なげえよ

さあ今日もお仕事だあゝ

ねえねえリンドウさん

ヒバリちゃん

今日は何をやらされるんですか？

「サクヤさんとの合同ミッションですね」

「サクヤさん……綺麗な方ですよー」

前はリンドウさんだったね

てか、あの人服について言われないの？

いや、まず服がアレな人まだ居ただけだね……

上にいたジーナさんは痴女じゃないか？

ツバキさんも胸を強調するとかそういうレベルじゃないよ

リツカは見た感じタレントで普通なんだが……

ブラしてないだろアレ

ん？あれ？サクヤさんもジーナさんもツバキさんも

ブラしてないように見えるよ……

何この職場？下着嫌いな人がいっぱい居るのか？

まあそんな健全な妄想を抱いて

出撃するよ

「この前の新人さんね？」

「私は橘サクヤよろしくね」

「ちよっと緊張してる？」

トンッ

肩叩かれた

そういうのコウタにやると

部屋に引きこもるんだろぅなあ……

なぜかって？そりゃあ……なあ？

「肩の力を抜かないと」

「いざという時体が動かないわよ」

ヒュオオオオオー

ここ嘆きの平原では

真ん中に竜巻らしきものがある

なーんか嫌なオーラ発してるんだよなあ……

「さっそくブリーフィングを始めるわよ」

「今回の任務は」

「君が前線で陽動」

「私は後方からバックアップをします」

まあ戦術的によくありそうですね

「遠距離型の神機使いと組む場合」

「これが基本戦術だから覚えておいて」
基本ねえ……

でもゲームだとそんなのぜんぜん……

スイマセンでした

「くれぐれも先行しすぎないように」

「後方支援の射程内で行動する事OK？」

NO!! あ、いや、なんでもありません

「素直でよろしい！」

「頼りにしてるわよ」

頼らないでください

何度死んでソーマに助けrゲフンゲフン

えーと今回は……

『コクーンメイデン』か……

さてさて平原のアイテム拾いながらいくよ

あれだね

あの黄色の様な変な奴？

アッチも俺とサクヤさんに気がついたようだ
なんか顔が変形して

バシユツ

いいッ!!???

光弾が飛んできた？

どこから？ 顔から？ 顔を武器にするのか？

イヤイヤイヤ……

また撃とうとしてるが

一気に踏み込んでブレードで

叩き斬る!!!

テューン!!

うぉぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ!!?!?!?!?

横をなんかがすり抜けた

怖いぜえ……

後ろを向くとサクヤさんが

俺とこいつを狙っている……

怖いから後ろにまわr

ドスッ

変な音がした……

腹が熱い、焼かれてるみたいだ……

いったい何が?

コクーンメイデンの棘が

腹に刺さっている!?

見ると痛くなるだろうなあ……

んぐがああ!

棘が抜かれた……

回復剤を打ちコクーンメイデンを斬り倒し

捕食して死ぬかどうか考えた

大丈夫大丈夫だ……
もう一体のコクーンメイデンも
倒しアナグラへと帰る

前も怪我したなあ……
俺って強いのだろうか？
期待の新人なのだろうか？
貴重な新型なのか？

ただの弱い奴なんじゃないのだろうか……
だが生きているだけでもありがたいのだろうかなあ……

戦わなければ死んじまう……
だが戦えば死んじまうかもしれない……

後者の方が生存率が高い
やるしかないようだな……

サクヤさん誤射しないでね（後書き）

はい6話目を読んでいただきありがとうございます

ネットで宣伝しようと思いましたが
ちょっと面倒なのでなしで

そのまま書いて行こうと思います

ムービー何度も見る機能が
バーストにあるらしい期待しよう

トイレと死人（前書き）

あー何でこんなに放置したんだ？

もうすぐ一週間だよ……

てかソーマの所なのに7話目とかおそすぎるだろ

トイレと死人

髪が少し焦げたが気にしない……………
気にしたら負け

「クソツガキ扱いしやがって」
え？いきなりコウタ何言ってるんだよ

「いや、あそこの二人さ、新人イジメするタイプだぜ絶対！」
「あーああんなやつらと一緒にミッション行きたくないなあ」

ああ、なーんか嫌み言うタイプかね？
この人達死ぬ事はないが、赤毛ヘタレだな絶対！

「ちょっと聞いたあ？」

「トイレが詰まって大変な事になったって話！」

トイレ詰まったのかそれは大変だな
誰か酒飲んでトイレに顔突っ込んで寝てたのか？
それかバカでかいうんこしてあったのか？
それとも両方か？

「それがさ、またあのエリックの仕業なんだよ」

「重役の息子なんだか知らないけどさ」

「トイレの使い方知らないなんてねえ！ まったく……………」

どんなうんこしたんだよエリック……………

どんなのしたんだよ……………効果音ボルンッ！ってなるのでもしたのか？

まあそんなこと考えてないでお仕事ーお仕事ー

「あ！ サクヤさんあなたの事すっごくほめてましたよ！」

「さっきまでいらしたんですけど…自分の部屋でお休みしてるのかな？」

え〜と今回はっど……

ソーマさんね

敵さんは、コクーンメイデン、オウガテイルね
多いよ敵……部屋に居たい眠たい

ぼやきながら目的地に到着だあ……

あれ？今回ソーマしかいないって聞いたんだが……？
あんた誰だよ

「お、君が例の新人クンかい？」

「噂は聞いているよ」

「僕はエリック」

「エリック・デアalfオーゲルヴァイデ」

ああ、あなたがエリックさんですか……

トイレ壊した人ですね

凄いうんこした人ですね

いつも何食べてるんですか？

「君もせいぜい僕を見習って」

「人類のため華麗に戦ってくれたまえよ」

あ影が迫って

「エリック！上だ！」

シュタツ

うわああああああああああああああああああああああああああああ

あ……………

目の前で人が食われた
いや喰われた

そしてもろに頭喰われた
「ボーっとするな!!」

ザンッ!!

ソーマが一閃
オウガテイルが倒れる

オウガテイルは死んだようだ
そしてエリックも死んだようだ
さよなら、エリック

エリック……
エ、エリック!! ウンコノヒト
さようなら……………

「…ようこそ、クソツタレな職場へ」
おいスゴイうんこした奴が目の前で死んで
クソツタレはないだろ
傷口抉るなよ

「俺はソーマ」

「別に覚えなくてもいい」
斬新な自己紹介だな

「言っておくが、ここではこんな事が日常茶飯事だ」
トイレ壊すと死ぬのか？

丁寧に使おう

壊すとオウガテイルが天誅下しにやって来るのか

ジャキッ

ソーマが剣を俺に向ける
おい何の真似だ？

「お前はどんな覚悟を持ってここへ来た？」
んなモン持っていないよ

そういうの無いといけないなら
今作っていい？

提出期限とか有るの？

「なんてな…」

「時間だ、いくぞルーキー」

聞くだけ聞いてそりゃないぜ

まあ冗談っぽく言っていないでさっさと仕事しよう
エリックの二の舞は嫌だからな

「…とにかく死にたくなければ」

「俺にはなるべく関わるな」

何言ってるんだこいつ

関わるなって

アナグラじゃ嫌な奴とも自然に顔合わすだろ
ましてやあそこ仕事場だぞ

事務所っぽいけど

フハハハハハ

敵が多いぜ……

とりあえずオウガテイルを
ブレード改の錆にしてやr

グアッ!?

コクーンメイデンがこっち向いてる

あ顔伸びた

レーザー? そんなもの当たらんないやさつき当たったけど
まだ撃つのか当たらぬよ

ん? 今度は上に行くと
ゲフッ!

上から降ってきた

心成しかコクーンメイデンが笑っているように見える

よろしいならば戦争だ

結果死にそうになりながらも戦いました
そしてソーマ強いな

あの異常な強さ、あと身体能力もすごかったな
「関わるな」ねえ……

まるで自分から「自分変です」って言ってるような気がするねえ
まあ関わってほしくないのなら仕方がない

疲れたさっさと寝よう……

トイレと死人（後書き）

読んでいただき誠にありがとうございます

はいエリックです

ソーマではなくエリックです

駄文に付き合っていたきありがとうございます

新人がそろって仕事行くなって死ぬんじゃない？（前書き）

あー、なんて言うか……

BURSTの体験版をずっとやってました
すみませんでした………

新人がそろって仕事行くなって死ぬんじゃない？

はあ……

目の前で人が喰われるのは初めてだったなあ

これがよくある事なのがすごいよなあ……ブラック企業すぎる……
これ製薬会社の仕事じゃないだろ

あ、ソーマあんなのが日常茶飯事って

「何の用だ？」

人足りなくならないのか？

エリックがいるかどうかでだいぶ変わったんじゃないのか？

「……エリック？」

「……俺には関係ない」

「弱いヤツから先に死ぬ……ただそれだけの話だ」

いや関係なくはないだろ

少しは気にしようぜ

まあジーナさんやブレンダンさんも

他人の命より自分の命って言ってるからな

まあエリックは、伝説になったから結果いいじゃない

あれ

コウタいないな部屋か？

（新人区間）

おゝす

コウタ居るか？

「よっお疲れ」

「聞いたよ：同行してた人亡くなったって：」

「うーん：ここで2人暗くなっても：」

「どうしようもないことだと思っただよな：」

ああどうしようもないな確かに

「うん：大丈夫だよ、自信持とうぜ！」

「根拠なしに決めてるから！無敵っしょ！」

無敵じゃなくて無謀じゃないのか？

まあそのくらいぶっ飛んでた方が良さな

「ま、そういうことで：」

「元気出していこうぜ！！」

「あ、そうだ：リンドウさん何か気にかけてたみたいだよ」

「さっき部屋に戻ってたから、行った方がいいよ！」

上司のことスルーはまずいしな

リンドウさんは支部長スルーしてたけど

新人だしなさっさと行こう

ベテラン区間

ふと思ったが

ベテラン区間ってなんか変じゃないか？

まあそれは置いといて……
リンドウさん入りますぜー

「ん：目の前で死ぬのは初めて……か」
まあ一度もそれが無ければいいんですがねえ

「……そういや、お前とゆっくり話した事は無かったな」
「話すのはあまり得意じゃないんだが……」
「何か聞きたいことはあるか？」

えーっと

エリック、ソーマ、コウタについて聞いてみた

結果

エリック　ボンボン、甘ったれ、妹思いのいい奴

ソーマ　極東支部トップクラス、ガキ、あいつほど優しい奴はい
ない　備考、厨2病

コウタ　真っ直ぐ、同期は大事にしろ

「そうだな……コウタもお前も、技術はまだまだ未熟だが」

「まあ、しばらく生き延びてりゃいい線行きそうだ」

「期待してるから……とにかく死ぬなよ」

「いいな？」

上官命令ですね

命令したからにはリンドウさんも死なないでくださいよ

（エントランス）

おいーすヒバリちゃん
今日の仕事はなにかね？

「『コンゴウ』が出現しました最近姿を見せなかったんですけどね」

「すみやかにコンゴウの討伐任務を遂行願います」

コンゴウ

- ・猿みたいなアラガミ
- ・けっこうはやい
- ・4体になるとやけに強く感じる

おいタツミ兄貴

そんな顔して睨むな

「おお？今回はあんたと一緒か？」

ようコウタ新人二人で大型とかふざけんな
あれじゃね？新人いびりだよなコレ

「お互い無事で何よりだね！」

「命あってのこの商売だからねえ」

仕事がブラックすぎるが？

神を冒涇するとかのレベルじゃないだろこれ

「オレも何かあると、母さんも妹も路頭に迷っちゃうから」

「気をつけないとなー」

おいやめろ死亡フラグみたいな事を言うな

「あ、そうだ」

「サクヤさんって知ってる…よね？」
知らない方がすごいんじゃないすか？
極東支部に居れば顔合わすだろうが

「もしかして仲いい？」

「あの人ってなんかいいよね、美人だし、感じもいいし、強いしさ」
「戦うお姉さん、って感じでさ」

「たままないよなー!？」

「よおおし!なんか、テンション上がってきたああ!」

「今回の任務、どっちが多く倒すか勝負しようぜ!」

「サクヤさんに、いいところ見せてやるぜー!」

コウタお前は知っておいた方がいい事がいくつかあるな

- 1・リンドウ少尉の存在
- 2・今回の任務はそんなにザコも居ない
- 3・現実には甘くないという事

わかったか？

よく覚えておくと良い

（鎮魂の廃寺）

さーてさっさと終わらせますかねえ
って思ってたんだが……

寒いいいいい!!!

何これ？ココ一応日本だよな？

吹雪なんか起きるか!？

関東だぞココ!!!

もういいさつさと猿を喰うぞ

オウガテイル3匹を難なくぶち殺す

問題はここからだ

コンゴウまだ戦った事がない事と

寒くて仕事したくない事

この二つだ

さて本殿の方に何か黄色っぽい何かいるんだが
どうみてもコンゴウです。本当に（ry

先手ひssy

「くらえー」

間抜けな声とともに雷属性のラピッド弾が飛んで行く
あ気付かれた

まあ見た目から遠距離技なんかd

足に激痛が走ったと思ったら

宙に浮いてた……

足がズタズタになっている

刃物で切られて様な傷がある

どうなってるんだ？

とりあえず回復錠を使い回復しつつ

コンゴウの動きをみる

………

コウタが戦っているのをみるが

空気の塊と言うか衝撃波の様なものが見える

遠距離攻撃ができるようですねえ

だが後ろには飛ばせない
つまり！

ふう……

10分近くコンゴウのケツを斬り続けたわけだが
初の大型だったんだが……

こんな初勝利で良いのだろうか……

まあ生きてれば何回も戦うんだろうな

あーゴッドイーターに天罰はいつ下るんだろうな

天罰か神罰か分からねえけど

その神様すら喰ったらどうなるんだろうな

新人がそろって仕事行くなって死ぬんじゃない？（後書き）

あーこれは酷い

そして更新遅い

何をやってるんだろうか私は……

今日もなんだかやる気が起きないなんて……………(前書き)

今回はサカキの講義だよ
読まなければそれでいいよ
講義書くのは面倒だよ

今日もなんだかやる気が起きないなんて……」

「アーコロジという言葉を知っているかい？」

知るか、いきなり何だよ

コウタ後で何か起きるよ

背後に気をつけろよ

「アーコロジとは、」

「『それ単体で生産、消費活動が自己完結している建物』を指す言葉だね」

「そう、実はアナグラを中心としたフェンリル支部は」
「一種のアーコロジだといえるんだ」

へー生産は地下でやってるし

住民が飯を食うからアーコロジなんですね

「これって、極端な話、ある支部を除いた」

「全てのフェンリル組織が減んでも」

「残った支部は単独で生産、消費活動を行い」

「今まで通り生き残る事が可能なんだ」

ある支部？ある支部ってどこですか？

支部って事は本部は減んでもいいんですね

本部はフィンランドだから他のどっかですね

減ればいいのに

え？ いやいや何でもないし何にも言っていないですよ

「アナグラは地下に向かって食料や神機」

「各種物資の生産を行うプラントがあり」

「外周部には、対アラガミ装甲壁や」

「キミたち優秀な神機使いをはじめとした、強固な防衛能力もある」

壁と人でアラガミどうにかしろってのも

中々危なっかしいと思うがな

「それがフェンリル支部であり」

「人類を守るために最適化されたアーコロジーなんだよ」

「ただ、そこにも問題があって」

「それは収容可能な人口に限りがあることなんだ」

制限あるから何人か外で暮らしてください

ってか？

人類守りきれないじゃない……

「君たちも知っている通り、この極東支部の周囲には」

「広大な外部居住区が形成されている」

「しかし彼らすべてを収容するだけの規模は」

「まだこの支部にもない」

「にも」 って言ってるから無理だな

外部って言っても壁の中だよな？

「外周部に対アラガミ装甲壁を巡らすことが」

「今できる最大限の対処策なんだ」

じゃあ浮ける奴いるじゃない
ザイゴ、ゲフンゲフンじゃなくてサリエあーあー
なんでもないよ

「…それだけで足りるのかな」

「現に装甲は頻繁に突破されてるんじゃない」

そのための俺らだろ

第一部隊だけど……

まあ人員不足だから防衛行かされるけどな

「だからそのためにゴッドイーターの防衛班も配備されている…」

「いや、すまない」

「コウタ君の家族は外部居住区にいたんだっただね」

「軽率な物言いを許してくれ」

「いえ、俺はただ…」

「本当はアナグラを地下に向けて拡大して」

「内部居住区を増やす計画もあったんだけどね…」

増やせない理由でもあるのか？

「でも、その計画をより安全で完璧にしたのが」

「『エイジス計画』なんだよね」

「そうだね」

「現状、極東支部の地下プラントの多くの資源リソースは」

「エイジス建設に割り当てられているんだ」

「…その話はまた今度にしておこうか」

何故今話さないんだ？

話せない理由でもあるんスカねええ

榊博士…：知って損するのかわ得するのか

それとも知ったら消されちゃう？

なーんてないですよねえ？

まあどうなろうと

生きてりゃ勝ちだろうなあ

アラガミも天罰も自分の神機も

どれれも死に繋がるからどうしようもないってか？

今日もなんだかやる気が起きないなんて………（後書き）

はーい読んでいただきありがとうございます

前回は遅かったんで出来るだけ早くしておこうと思います

噂と取り残された人に戻らない場所（前書き）

相変わらず

戦闘描写は苦手だよ

ギャグシーン入れてみたいけど原作っぽく行くので
番外編とかやりたい

噂と取り残された人に戻らない場所

大型結構つらい

やってられない……

コンゴウうざい面倒くさい……

4匹集まると強くなるし……

ピルグリ

……

あーあーなんでもない

コウタよ

この仕事やってられんのだが

どうしようマジで

「いや、すげえ！俺の銃とあんたの剣！」

「息ピッタリだったよなってか最強コンビじゃね？」

お前は4匹に囲まれてゴロゴロくらってろ

「こりゃあ、家に帰ってノゾミに自慢できるぜ」

「地球の平和は俺が守る！ってさあ！」

お前は地球守らなくていいから家族守ってろ

アラガミに喰われないように

お前の好きなバガラリーのように生きていろ

ソーマは……相変わらず中二全開だったな

そのうち邪気眼つかえr

あーいやいや何でもありませんよ

「あのバカ息子が…」

「先に逝きおって…」

エリックの親父さんか……

そしてココに居る少女の親父さんでもある訳かあ
こんな髭オヤジからどうやってこんな娘が……

「ねえ！エリックはもう会ってくれないの！？」

「どうして？」

「今度来たら、お洋服買ってくれるって約束したのにつ！」

「エリナにお洋服くれるのがイヤになったの！？」

おいおい結構重たい話じゃない？

こんな仕事してるんだから

エリックも覚悟してただろうが……

ソーマの言うとおり弱い奴から死んで行くんだろぅなあ

あーおっさーん

回復剤くれよ回復剤

毎回毎回腹挟れたり、背中焼けたり

足ズタズタにしたり骨折れたりしてるから
すぐに無くなるんだよ

「よう新入り、ちょっとした噂話があるんだ」

「耳貸しな」

そんな趣味は無い

だが噂は気になる教えてください

「死んだエリックは、若手の神機使いとしちゃ腕は悪くなかったぜ」

「それが、こうもアツサリ死ぬにはワケがあるって話だ…」

それは知らんよエリックの腕とか

とりあえず、あんたは弱かったけどな

まあ教えてくださいヘタレ

「俺たちの中に『死神』がいる…アラガミよりも危険だぜ？」

「そいつとチーム組んだヤツは、バンバン死んでいくんだからな！」

「『死神』の名前はよ……ソーマってんだ…」

「呪いの威力、見ただろう？」

「お前も関わらない方が身のためだぜ…！」

おいおい

ふざけるのはコウタとタツミとアンタだと思ってたが
ふざけてるようじゃあ無いようだな

うちのチームの奴

死神呼ばわりしてんじゃねえよ

この雑魚野郎

あいつは確かに中二っぽい

自称死神（笑）ならまだしも

うち、……いや

極東支部の最大戦力に何を言っている？

『死神』？ふざけてるのか？

死神かあんたみたいなヘタレだったら

『死神』選ぶわ

じゃあなへタレな赤毛先輩

くベテラン区間ーリンドウ部屋く

あー胸糞ワリい

何発か誤射してやろうか……

そう思いませんかリンドウさん

「おっ！お前すごいじゃないか！」

「コンゴウを倒せたんだって？」

余裕でした！

と言っておくよ

「おう！いいねえ！」

「その調子なら俺のアルバイトも……」

「っと、それはさておき、だ」

「お前があのアラガミ倒した寺の跡があっただろ」

「あの辺、俺が子供の頃住んでたところなんだよ」

へーリンドウさんあの辺出身なのか

寺生まれなのか…… 破あー！！

いやなんでもない

「俺とサクヤと、あと姉上……えっと……ツバキ教官だな」

「皆あの近くの出身なんだ……今や見る影もないけどな……」

「いかんいかん、感傷的になってる場合じゃない」

「ま、とにかくよくやった、ということ……」

「よし、備えを怠らずに待機しておけ」

「以上だ」

了解しました

リンドウさん達あの辺出身なのか……

あー全部終わって全部元通り……なーんて無理かあ

まあせめて女子供は泣かず

男は酒飲んで笑ってられるのなら良いけどなあ

噂と取り残された人に戻らない場所（後書き）

あーシユンの所で変に長くなったああああ

中二っぽくなってしまうた

まあ良いけどなあ

重役とワニ（前書き）

えー更新はやめてやるんだからな！

重役とワニ

さーて

リンドウさんの出身地知ったところで
ヒバリちゃーん

『鼠捕り』？

オウガテイル1匹

コクーンメイデン2匹

リンドウさんにサクヤさん、ソーマと
一緒に出撃ねえ

あー？言うまでも無く楽勝だろう？

あー仕事の結果

リンドウさん 無傷

サクヤさん 無傷

ソーマ 無傷

俺（霧島） 背中が焼ける、肋骨折れる、左手に棘が刺さる

はぁ……

死なないだけましだったけど……

回復剤買わないとなぁ

やってらんねえわ

あー病室行ってくるかねえ……

あー今日はさっさと寝ておくか

こんな仕事してて死なないのが不思議なのかねえ？
まあ普通の人間じゃ

何時アラガミが襲ってくるか分からねえもんなあ……
あー眠くなってきた

GEになってから傷の治りがものすごく速い
流石オラクル細胞ってか？

さー今日もお仕事お仕事っと

ヒバリちゃん

つとこの前の幼女まだ居るじゃない

「もうお洋服……いないから……」

「エリック帰ってきてよう……」

ソーマよお確かにクソツタレな職場だな
死人に供養もできなきゃ

事情も知らない子供に何一つ言えない

クソツタレな職場だよまったく……

あーなんかやる気出てきた

アラガミ喰って喰って喰らい尽くしてやろうじゃない

『鰐2号』

グボロ・グボロ一体を撃破せよ、ねえ
なおオウガテイルが徘徊している……
面倒だなあオイ

まあ嘆いても祈っても変わらねえから良いけどよ

さあて、リンドウさん来るまで
ソファでゆっくり……

なんの音だ？テレビ？

「次のニュースです」

「今年も抗議デモが行われました」

「本日未明、外部居住区生活者を中心とした団体による」

「フェンリルに対する抗議集会在、世界各地の支部前に行われました」

「フェンリルに対して、主に食料供給の増量と防衛の強化」

「雇用枠の増大を訴えたもので」

「参加者は2時間ほどデモ行進をしたのちに」

「大きな混乱もなく解散した模様です」

まあ抗議する気持ちも分からんでもないが……

こちらら命懸けで神殺しをしてるんだぞ

放っておいても死ぬんならって事で俺たちだぞ？

言うなれば応急処置の捨て駒だ

まあこんな世界じゃ生き残った奴の勝ちだから

無駄な事してないで生きてろってんだよ

「あっこっちこっち」

「すごく活躍してたらしいじゃない」

「期待以上だって評判いいわよ」

俺の強さですか？死なない事ですか？

「でも、あまり張り切りすぎないでね……」

「神機使いは……すごい人ほど、早死にするから……」

じゃあ俺は引退できますねえ

あれ？じゃあエリックって有能だったんじゃないか？

「ってことは、俺はまだまだってことか……」

「相変わらず重役出勤ね」

「重役だからな…」

「さーて、今日も楽しいお仕事だ」

まあ命のやり取り楽しいって人居ますもんね
俺？ないないそれは無い

「今日の任務は俺達3人で動く」

「俺が陽動でサクヤがバックアップ」

「了解」

えーっと俺は？

「お前は遊撃だ」

「新型らしく、状況に応じて動いてくれ」
了解しました

サッ

ん？どうかしたんですか？リンドウさん
端末がどうかしました？あれ？それ俺もらってないよ？
どういう事だ？ん？誰か教えて

「ほかに何かある？」

「ん、まあ、死ぬなってことで」

「大雑把な命令承りました上官殿」

ああああああああああ

鉄塔の森なんか大嫌いだ

なんか科学臭いよ

薬品漏れ臭いよ

さーてアイテム拾いながらっと、アレ？
なんか青いものもぞもぞしている

あれか？あれだろ？あれなんだろう？

『グボロ・グボロ』

・魚？え？鰐？どこがだよ

・砲台っぽい所から水が出る

・実は早い

おっしやあ

先手必勝なんとやら！

銃形態にして雷属性のラピットを撃ちこむ

サクヤさんが横でレーザーを撃ちこんでいる

リンドウさんが一瞬で間合いに入り

大きく縦に叩き斬る！！

ヒレに

ブラッドサージの刃が喰いこむ

不意をつかれたとはいえボコボコにされる

だが

仮にもアラガミだこちらに向き直り

鰐や鯨を想わせる大きな牙を向け、猛スピードで

突進してくる！

だがそれを

俺は後ろに避け突進の勢いがなくなる所まで下がった

サクヤさんは横に避け

またグボロ・グボロに狙いを定めている

さあて

俺も剣形態にして斬ってやr

え？大口開けて何でこっち向いて

「新型あボーっとすんなあ！」

リンドウさんの声が聞こえる！

だが、動けなかった……………

大きく開けた口が俺を喰おうとする

俺の神機は、剣形態になって

敵を斬りたくてうずうずしてるような気がした
目の前には大口開けて迫って来る

グボロ・グボロがいる

俺を殺してやろうと喰らってやろう迫って来る
グボロ・グボロが、鋭く並んだ牙があった……………

重役とワニ（後書き）

前後篇つぼくしたいけど分かんないから
普通にぶち抜くよ

重役とワニ2 (前書き)

はい前後篇風なのに一か月近く放置したよ
熱しやすく冷めやすい奴ですはい……

重役とワニ2

鰐とも魚とも言われるアラガミ

グボログボロが、今目の前で俺を喰おうとしている……

俺の神機が、コイツを斬りたがっている気がする

あくまでも気がするだけだな

それとよくもまあ、敵の目の前でこんなに考え事ができるなって？

それが不思議な事に、時間がゆっくり流れてる気がするんだよねー
え？死ぬ寸前に見る奴だろうって？

それだけは無い

何故って？それはなあ……

俺は死ぬ気ないからだ！

わかったか？それじゃ俺はこの魚を刺身にでもしてやるよ！

そんな決意をした瞬間、時間が普通に動き出す

魚野郎が俺に突っ込んでくる！

だが、そんなもん今の俺には効かない

何かの本で読んだが、人の覚悟や決意は一時的ではあるが

人を変えるらしい

今俺はそんな状態だ……

つまり！俺は！死なない！

ジャンプして突進だか噛みつきだかわからない攻撃をかわし
空中で回転斬を放ち魚野郎の後ろに回る

「新型あ無理するなよ！」

無理してないと、この仕事できないしー

まあ3つの命令守らないとな……

後ろに下がり神機を変形させレールガンを構える

「貫け！！」

サクヤさんがレーザーを撃つ

それにならない雷属性のレーザーを撃つ

おー効いてる効いてる

「いいぞ！サクヤ、新型もうちょいだ！」

しかし銃撃だけでコイツが沈むわけもなく……

OPの切れた俺は再び剣で戦う事になる……

うおらああああああ！！！！

剣形態に変え突っ込m

！！！！！！

げっは……なんだ今の……

何かに当たって吹っ飛ばされて……地面に打ちつけられて……

……っーか服重い……てか寒い！

服水浸しじゃねえか……

つまり大量の水しかも結構水圧かかったような奴か？

許さんぞ、魚野郎……

俺の帳羅を……いや支給服だが……

刺身はやめだ……活け造りにしてくれる！！

「おお新型、さっき何か喰らってたが大丈夫か？」

大丈夫です、むしろガッツ出てきましたよ……

リンドウさん仇を取ってくれ…

そんな事考えていたらリンドウさんがとどめ刺してくれた

さーお喰べー

もっさもさ喰うな俺の神機……

さあて仕事終わったし帰るかー……

重役とワニ2（後書き）

ハイすみませんでした……
物凄くすみませんでした

色々面倒だなこの仕事、話聞いて回る仕事とか無いかなあ（前書き）

アハハハ

月一更新になりつつあるよ、BURSTすらクリア出来ないダメ腕
め……

色々面倒だなこの仕事、話聞いて回る仕事とか無いかなあ

アナグラ内 エントランス

ただいま帰りました、クソツたれな職場のエントランスに到着である

「あれ？元氣ないね…？」

いやあんなわけ無いですよ、ホント俺空気とかそういうのとか無いですホント

「んー：なんか急にアラガミが強く…というか」

「知的に、高度な動きになってきている気がするわね…」

「ま、わたしたちも少しずつ進歩しているわけだし…」

「あなたみたいな頼もしい味方もいるわけだし、ね！」

俺を戦力に数えない方がいいですよー、グボグボさんに数回殺されかけたわけだし、ね！

なあブレンダンさんよ、極東支部の女性陣は露出多くないですか
い？

「ふう：極東に来てずいぶんと経った…」

ふう：…ってなんだよ賢者タイムか？それともただの溜息か？

「もつとも、どこが『東』か分からない有様だがな」

東は太陽のやつてくる方向じゃねえの？

太陽がまともに機能してるかは知らねえけどな

所でお前は出身何処だっけか、日没する処の天子がいた所か？

「俺の出身地？ここが日本という国だった頃は」

「アメリカと呼ばれていたよ…」

こいつ旧米の国の人だったのか

へーいタツミ兄貴暇だから話そうぜー

「そーいやお前さん、ゴッドイーターになる前は、何してた？」
……………別に？無職だよ？

「ぷはっ！いいねえ、その開き直り！」

「そりゃ今の時代、ロクな仕事なんかねえもんな！」

まあここもロクな仕事じゃないけどな

ブラック企業がフリーザ惑星開拓会社ほど

ホワイトな会社に見えるであろう……

「フェンリルの工場だって、たまに求人すりゃとんでもねえ倍率だ」

「配給ときどき逃亡って生活、当たり前になっちまったもんなア……」

倍率高いのか……こんなにブラック企業なのに

就職氷河期どころか核の炎につつまれたな……

新人区間コウタの部屋

ういゝっす、相変わらず汚ない汚部屋だな

「聞いてくれよ！俺、恐ろしい真実を聞いたんだ！」

「いや、まだ決まったわけじゃないけど……噂だけ……」

どんな話だ？変な話じゃないだろうな？

「知ってるだろサクヤさん、あの素敵に最強なサクヤさんだよ」

「それがさ、実は……彼氏がいるらしいんだよっ！」

な、なんだってー！？

こいつはド阿呆なのだろうか……

「その幸運な男とは誰か？乞うご期待！……ってことだけどさ」

「知りたいような知りたくないような……俺どうしたらいい？」

ツバキさんの特別メニューでも、受けてきてくれ

泣いたり笑ったり出来なくされろ

まああきらめろ……な？

「え……？知ってるの？」

「真実を知ってて言ってるんだね……？」

いや、知らないのはお前だけだと思うぞ？

「ごめん、ちょっと考えさせてくれ」

「明日はどっちだって感じ…」

……こいつ本物だ、スゲエぜ…

とりあえずリンドウさん達に会って来ようっと…

ベテラン区間

……やっぱこの名前変だろ

まあいいや

あ、おーい中二病、邪気眼見せてみるよー

「新型、まだ生きてたか…なかなかしぶといな」
人を家庭内害虫みたいに扱うな

「…アラガミはリンクエイドの匂いを」

「嗅ぎつけて寄って来る」

リンクエイドする時ってなんか臭うのか？

知らなかったな…

「死んで泣く者がいるなら」

「そのまま死なせてやるのも、幸せかもな…」

「死んで泣かれる奴もいれば」

「生き残って憎まれる奴もいるしな」

つまり、どういうことだってばよ？

えーつまりなにか？エリックの事を気に始めたの？

それとも、お前もサクヤさんの彼氏誰か分からなくてそんな事になったの？

どーなのよ？中二病さんよ

役員区間

だーっれっかないっかなー

リンドウさんいた、どうしたのよさリンドウさん
支部長に呼ばれたの？

仕事サボったせいで減給とか言いわたされるの？

「おー、どうした」

「お前がここに来るのは、まだ早いだろー」

「まあ俺は支部長に呼ばれたから、わざわざ来たのに」

「先客がいるみたいだから、ここで待たされてるんだけどな！」
上の人はやりたい放題だなまったく……

あーそろそろミッション行こうかな……

一日何回出ればいいのかこの仕事、面倒すぎるぞ

色々面倒だなこの仕事、話聞いて回る仕事とか無いかなあ（後書き）

長い、戦闘ない、酷い

日に2回出撃なんて・・・ま、いつか(前書き)

更新早くするよ！

と言ってみたりする

日に2回出撃なんて・・・ま、いつか

今日もアナグラは平和だったな

ヒバリちゃん、今日お仕事、なんかあるかい？

ザイゴードさんが寺にいてるので叩き落として来いと

まあ大した敵でもないし、ザックリバツサリアツサリ行こうか

……中略……

おk空飛ぶハナクソの駆除に成功

正直特に何も変わった事は無かったな……

まあ今日は余裕あるしもう一回お仕事しましょうかねえ…お財布的に……

はあ…アイテム全部池ポチャなんて……お金無くなっちゃったよ！
なーんて嘆いても仕方ない、この悲しみをアラガミにぶつけてやる
のだよ

本日二回目ヒバリちゃん

………ハハハ今度は猿を倒して来いと……

この前もコウタと行ってきたのですが…？

まあいいやコウタに加えサクヤさんとソーマがついてくるよ
これなら余裕だね

贖罪の街

あれ？リンドウさん？何でいるの？

「あー本日も仕事日和だ 無事生きて帰ってくるように以上」

「え？それだけ？」

「いちいちツッコんでると、身が持たないよ」

「くだらん…」

「一人を除いて、心が一つになっているようで 何よりだ」
えっこっちみんな

何でこっち見てるの？

無口だから？ 空気だから？ 仕方ないだろ仕様だぞ

「ハハッ：冗談だ そんな悲しい顔すんな」

イジメか？ 集団イジメ え？ 何だ冗談か

5人もいる理由は俺を置いて行くのかと思ったぞ
ビックリするじゃないか

「このメンツでは初の4人任務だが」

「まあ、いつも通りやれてことで」

「あれ？ そういえばリンドウさんは？」

そうそう何しに来たの？ 仕事サボりにきたの？

「俺はこの後ちよいとお忍びのデートに誘われているんでな」

「今から働くのはお前らだけーっと」

端末鳴ってるね、畜生やっぱ俺はそれ貰ってないぞ

「早く来ないと、すねて帰っちまうとさ」

「：ったく、せっかちなヤツだ」

クソ自慢か？ 自慢なのか？ 自慢だろ？

自慢だと認めろチクショー！

「俺はそろそろ行く 命令はいつも通り」

「死ぬな 必ず、生きて戻れ だ」

ハブられた上に自慢された生きて戻りたくない
恐らく死人が出る

「自分で出した命令だ：」

「せいぜいアンタも守るんだな：」

「リンドウもあんまり遅くならないように：ね」

え？ 何この反応、まるで何か知っているような

あははー気になるなー

「さあ、行きましょ！」

さあさあさあ！楽しいショーの始まりだぜえええええ！

…あ、いや、なんでもない

さあてと、イキナリ目の前に猿とハナクソが出やがったぞこの野郎
まあハナクソは、サクヤさんとコウタが撃ち落としてくれるだろう
2体しかないしな

まあ空飛ぶハナクソ共を先に潰しておこう

この放電チェーンソー様が貴様らをズタズタnぐえぶ
クソッ！カッコ悪い台詞を考えている間に体当たりをかましてくる
な！

っーかチェーンソーもチュイイイイインってならないのか？

ブイイイイインでもウイイイイイインでもいい刃の部分動かせよ！

文句言ったらハナクソ2体は穴だらけになっていた

それとソーマが猿の背中をボロボロにしてくれていた

俺の出番は無いようですね！

さああてと、何もしてないけど死体をムッシュヤツムシャしておきま
すかー

ただいまーさっき何もしなかった奴が帰ってきたよ

ちよリンドウさん帰って来るの早すぎだよ

何で先に帰ってきてるんだよ

「先に帰ってたのね お疲れ様」

先に帰って一杯やってるなんてうらやましいなあオイ

「ああ、何とか早めに切り上げられた」

「そっちはどうだった？」

「ご命令に従って、『いつも通り』だ」

いつも俺が仕事してないというか！反論できない！

「任務に滞りないし、人も欠けてないわ」

「おれたち4人の華麗な連係プレイをリンドウさんにも見せたかったよ！」

フォローなの？それともあえて言ってるの？

「お前そんな役立ってたか？」

「なっ！！？」

ソーマ容赦ない、そしてコウタも仕事してなかったみたいだ

「そうか これならこっちももう少し」

「デートの回数を増やしてもよさそうだな」

「まず俺に女の子紹介するのが先じゃないっすかね？」

「…ふっ、お前の手には負えないと思うぞ？」

つとここでアナウンス

「業務連絡 本日第七部隊がウロヴォロスのコアの剥離に成功、」

「技術部員は第五開発室に集合してください」

「繰り返します ウロヴォロスのコアの剥離に成功」

「技術部員は第五開発室に集合してください」

あららリツカ達今から仕事か？

「ウロヴォロス！！どこのチームが仕留めたんだ？」

「しかもコア剥離成功かよ…ボーナスすげえんだろうな」

「おい、おごってもらおうぜ」

「やめときなさいよ みつともない」

モブうるせーよ、声デケーよ

「ウロヴォロス…って何？強いのか？」

「ターミナルを調べりゃ出てくる」

「たまには自分で調べろ」

ソーマは何だかんだでコウタに色々教えてんのね

「そうね…」

「私たち4人じゃ、まだ無理じゃないかな…」

「マジでえええええ！？このメンツでも？」

「1人2人は死人が出るだろ」

俺とコウタが、か？死ぬの

「まあアレだ、生き延びてればそのうち倒せるだろ…」

「今は余計な事を考えず、とにかく死なない事だけを考えろ」

「その台詞、いい加減聞き飽きたぜ」

奇遇だなソーマ俺もだ

「…ああ 特にお前には何度でも言っとくわ」

「ほつとくと一人で死に行っちまうような奴にはな」

「チツ……だまれ……」

「いゝい」

「さ、俺は次のデートの備えて精のつくものでも食ってくるかな」

天狗が如くとか如意棒とかですか？

それとサクヤさんとソーマは何で急に黙ったの？

サクヤは私というものがあらーみたいなこと？

厨二病は隠密行動懂れるの？

え？それとも何？さっきの口に出てたの？

天狗とか如意棒とか言っちゃったの？

天罰下れ俺に！

つゝか下ってええええええ！！

日に2回出撃なんて・・・ま、いつか（後書き）

ハハハ

更新早くするよと言うと

次が遅くなる法則凄いね！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6504n/>

神様を食べるお仕事の小説

2011年10月7日19時34分発行